

姫だるまおやきで交流

大分県竹田市・稲葉学園高生が来町

【音更】大分県竹田市の稲葉学園高校(梅木伸彦学長、生徒120人)の生徒3人が19日、音更町を初めて訪れ、町ふれあい交流館で、郷土の伝統民芸品「姫だるま」をかたどった「姫だるまおやき」をつくり、登校することが難しい児童・生徒を対象とする町教育支援センターふれあい柳町教室「ほっと」の関係者や町教委職員らと合わせて7人に振る舞い、交流を深めた。

(長瀬聡美通信員)

まちマイ NEWS

音更町編

電子版でも→



マチの毎日がニュースに。地域の問題をより深く。



姫だるまおやきを囲んで交流した参加者ら。前列右2人目から安達さん、東田さん、藤原さん。同左から3人目が白石さん、同2人目が澤田さん

生徒考案、CFで金型製作「ほっと」で振る舞う

初来町したのは、同校3年の安達滯奈さん(18)、東田和奏さん(18)、藤原悠之介さん(19)と引率の井上綾乃教諭(38)ら合わせて5人。

生徒らは、地域の高齢化や農家の後継者不足の課題を前に、「地元伝統民芸品を使った商品開発で地域おこしをしたい」と思い立ち、竹田市内にある「ことう姫だるま工房」で提携し、地域おこしプロジェクトを立ち上げた。

商品化を模索する中、井上教諭がインスタグラムで、自宅にいながら姫だるまの金型を使っておやきなどを焼いている札幌市内の澤田千鶴さん(45)の存在を知り、連絡してみたところ、昨年3月に姫だるまの金型を同校に持ってきてくれた。

生徒らは、昨年4月上旬から「福を招く『姫だるまおやき』プロジェクト」高校生の手による新しい地域おこし」のタイトルでクラウドファンディング(CF)を開始。約1カ月間で、目標額を上回る120万6000円が集まった。その一部(80万円)でおやき18個分の金型を新たに製作し、残金に姫だるまおやきをイベントで販売した益金を合わせて今回の旅費に充てた。

澤田さんと「ほっと」の運営を町教委から委託しているNPO法人教育支援協会は毎週の「ほっと」で

事(48)が知り合いたったことから、生徒たちの来町につながった。

この日、澤田さんも札幌から駆け付け、3人の生徒らは、サツマエ工館(あん)入りの姫だるまおやきなどを振る舞った。藤原さんは「北海道のみなさんにもおいしいと言っていただけにうれしかった」と笑顔を見せ、安達さんと東田さんも「姫だるまおやき、高校の学習の取り組みを知ってもらえて達成感がある」と喜んだ。

同NPO法人の榎本尚世代表理事(47)は「交流の様子を、『ほっと』を利用して紹介した動画を見て、